

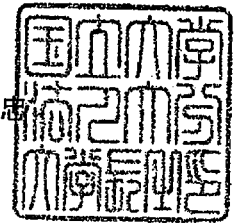
分大総企第 67 号

平成19年10月19日

文部科学大臣 殿

国立大学法人大分大学長

羽 野



大分大学大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）設置報告書

このたび、大分大学大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）を設置することについて、別紙書類にて報告します。

設 置 計 画 の 概 要

								事前伺い		
大学の名称	大分大学				計画の区分		研究科の専攻設置			
新 設 学 部 等 の 状 況 (学 年 進 行 終 了 時 に お け る 状 況)										
学部等の名称	学科等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設年度	専任教員		
					学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
医学系研究科	医学専攻 (博士課程)	30		120	博士 (医学)	医学関係	平成20年度	病態制御医学専攻 (博士課程)	25	15
								生体防御医学専攻 (博士課程)	22	11
								分子機能制御医学専攻 (博士課程)	27	14
								環境社会医学専攻 (博士課程)	10	7
既 設 学 部 等 の 状 況 (現 在 の 状 況)										
学部等の名称	学科等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設年度	専任教員		
					学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
医学系研究科	病態制御医学専攻 (博士課程) (廃止)	11		44	博士 (医学)	医学関係	平成15年度	医学専攻 (博士課程)	25	15
	生体防御医学専攻 (博士課程) (廃止)	6		24	博士 (医学)	医学関係	平成15年度	医学専攻 (博士課程)	22	11
	分子機能制御医学専攻 (博士課程) (廃止)	10		40	博士 (医学)	医学関係	平成15年度	医学専攻 (博士課程)	27	14
	環境社会医学専攻 (博士課程) (廃止)	3		12	博士 (医学)	医学関係	平成15年度	医学専攻 (博士課程)	10	7
【備考欄】 旧大分大学と旧大分医科大学が平成15年度に統合										

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院医学系研究科医学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備 考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	研究推進実践論	1・2・3・4	5			○			43	30	4			共通科目は、選択必修科目である。
	医療コミュニケーション	1・2・3・4	5			○			1	2				
	医学統計	1・2・3・4	5			○			2					
	医療情報システム学	1・2・3・4	5			○			1	1				
	小計 (4科目)	—	5			—			47	33	4			
基礎研究科目	組織病理学	1・2・3・4		5			○		1	1				
	癌のゲノム医科学	1・2・3・4		5			○		1	1				
	イソチアネリノ分子構造・発現・転写因子	1・2・3・4		5			○		1					
	スピン解析学	1・2・3・4		5			○		1	1				
	分子形態学	1・2・3・4		5			○		1					
	細胞形態学	1・2・3・4		5			○			1				
	細胞生物学	1・2・3・4		5			○		1					
	マトリックス生物学	1・2・3・4		5			○		1					
	糖尿病の分子薬理学	1・2・3・4		5			○		1					
	寄生動物学	1・2・3・4		5			○		2		1			
	節足動物媒介性感染症	1・2・3・4		5			○		1	1				
	微生物感染免疫学	1・2・3・4		5			○		1					
	微生物分子生物製剤学	1・2・3・4		5			○			1				
	感染症疫学	1・2・3・4		5			○		1					
	臨床疫学	1・2・3・4		5			○			1				
	産業中毒学	1・2・3・4		5			○			1				
	DNA多型分析の実務的応用	1・2・3・4		5			○		1					
	生物物理化学	1・2・3・4		5			○		2	2				
	微小循環学	1・2・3・4		5			○		1					
小計 (19科目)	—		10			—		17	10	1				
臨床研究科目	分子内分泌代謝・免疫病学	1・2・3・4		5			○		1					
	循環器・腎臓病学	1・2・3・4		5			○			1				
	呼吸器疾患のEBM	1・2・3・4		5			○		1					
	循環器疾患のEBM	1・2・3・4		5			○			1				
	神経病態科学	1・2・3・4		5			○		1					
	免疫と脳の病態科学	1・2・3・4		5			○			1				
	消化器感染症と発癌	1・2・3・4		5			○		1		1			
	消化器内視鏡学	1・2・3・4		5			○			1				
	臨床心臓病学	1・2・3・4		5			○		1					
	加齢心臓病学	1・2・3・4		5			○			1				
	外科循環制御学	1・2・3・4		5			○			1				
	脳循環代謝・神経外傷病態	1・2・3・4		5			○		1					
	機能性精神病の生物・心理・社会学	1・2・3・4		5			○		1					
	脳と心の科学	1・2・3・4		5			○			1				
	発生・発達小児科学	1・2・3・4		5			○		1					
	アレルギーの年齢依存性と予防・治療学	1・2・3・4		5			○			1				
	眼科学・病態と治療	1・2・3・4		5			○		1					
	視機能の科学	1・2・3・4		5			○			1				
	気道粘膜免疫学	1・2・3・4		5			○		1		1			
	創傷診断治療学	1・2・3・4		5			○		1					
	皮膚疾患病態学	1・2・3・4		5			○			1				
	急性肺損傷 ARDS/ALI	1・2・3・4		5			○		1					
急性炎症と臓器障害	1・2・3・4		5			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
臨床研究科目	運動器画像診断学	1・2・3・4		5			○		1					
	運動器疾患治療学	1・2・3・4		5			○			1				
	外科臨床診断治療学	1・2・3・4		5			○		1					
	外科分子腫瘍学	1・2・3・4		5			○			1				
	排尿機能病態学	1・2・3・4		5			○			1				
	生殖・周産期病態学	1・2・3・4		5			○		1					
	総合画像診断学	1・2・3・4		5			○		1					
	低侵襲治療学	1・2・3・4		5			○			1				
	救命救急医学	1・2・3・4		5			○		1		1			
	脳卒中・神経救急医学	1・2・3・4		5			○			1				
	薬物治療解析学	1・2・3・4		5			○		1					
	病態薬理遺伝制御学	1・2・3・4		5			○			1				
	創薬育薬医学	1・2・3・4		5			○		1	1				
	摂食・嚥下機能	1・2・3・4		5			○		1					
硬組織	1・2・3・4		5			○			1					
医薬品適正使用	1・2・3・4		5			○		1						
小計 (39 科目)	—		10			—		21	19	3				
がん研究科目	がんの診断病理学	1・2・3・4		5			○		2					
	臨床腫瘍学	1・2・3・4		5			○		1					
	内視鏡外科治療学	1・2・3・4		5			○		1	1				
	がん放射線治療学	1・2・3・4		5			○		1	1				
	がん薬物療法学	1・2・3・4		5			○		1					
	緩和医療学	1・2・3・4		5			○		1					
	サイコオンコロジー	1・2・3・4		5			○		2	1				
	呼吸器・血液腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○		1					
	消化器腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○		1	1				
	腎尿路生殖器腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○		1					
	婦人科腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○			1				
	乳房腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○			1				
	中枢神経腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○		1					
	皮膚腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○		1					
骨軟部腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○		1						
頭頸部腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○		2						
小児腫瘍診断治療学	1・2・3・4		5			○		1						
小計 (17 科目)	—		10			—		5	1					
論文科目	論文作成研究	3・4	5					○	47	33				
	博士論文	3・4	10					○	47	33				
	小計 (2 科目)	—	15					—	47	33				
合計 (81 科目)		—	20	10				—	47	33	4			
学位又は称号		博士 (医学)		学位の分野			医学関係							

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

- 1) 本研究科はこれまで研究者として自立するに必要な研究能力を培い、医学に関する高度な研究を主体とし、医学・医療の分野における特定領域の深い研究を行い得る研究者の養成を主たる目的としてきた。
しかし、基礎研究と同時に高度の専門性を有する臨床医を育成することが時代社会の強い要請であり、本研究科が果たすべき役割は多様化している。
これらの社会的要請に応えるためには特定の専門分野での深い研究遂行能力と豊かな人間性を併せ持った高度な専門性を有する医療人及び基礎研究者の養成が必要である。
- 2) 本研究科博士課程の学生は、指導教員の下で教育を受けながら研究を進めていくが、一旦専攻に入ると、4つに分かれた専攻それぞれの横断的な交流が乏しく、専攻の人間関係で学生が孤立するケースがある。そのことが原因で履修や研究に支障をきたし、修了が遅れることや退学を余儀なくされる状況が見受けられた。
こうした弊害をなくすため、平成18年度に専攻の名称変更を行ったが、学生の修学環境の改善には至らなかったこと、また、専攻名が複雑な名称であり、各専攻における教育内容が想像できないとの意見も聞かれたことから、これらを解決する方法を模索し、専攻を一本化して博士課程内の壁を無くすことが最大の方法との結論に至った。
- 3) また、近年医学が高度先進化し、臨床の現場においても高度な専門性を要求される社会背景に鑑み、全学的な研究・教育改革の一貫として大学院の見直しが必要と考えるに至った。
- 4) 本研究科では、現在設置している特定領域に限定した四専攻を、専門領域間の垣根を越えた融通性を重要視し、履修科目の選択をより流動的に行えるよう、また教育課程を柔軟で機動性の高い教育システムにするため、広く医学全般を包括する「医学専攻」へと一本化することで教育環境を整備する。
本改組は基礎研究と臨床研究の有機的な融合を容易にするとともに、大学院医学系研究科博士課程の実質的な教育体系の整備を意図するものである。
- 5) このことは、中央教育審議会答申（平成17年9月5日）の「専攻や分野の別を超えて、研究者養成と優れた研究能力等を備えた臨床医の養成及びそれぞれの目的に応じた教育課程を設けて学生に選択履修させることが適当」との提言でも明らかのように、専攻を一本化して実質的な教育環境を提供することが重要である。
- 6) 以上の理由により、本研究科を「医学専攻」に統合・一本化して修学環境を整え、優れた研究者を養成するための「基礎研究領域」と研究能力を備えた高度専門性を有する臨床医等を養成するための「臨床研究領域」を設置する。
更に、わが国の死亡率第1位を示す「がん」の研究・診療に特化した専門医養成のための「がん研究領域」を加えて三つの教育課程を新設する。
- 7) 学生には「基礎研究領域」、「臨床研究領域」及び「がん研究領域」間の相互の関連性も考慮して選択履修させる。これら三種類の領域は同一専攻内にあり学生が研究領域の変更を希望した場合は、他領域への移行は柔軟に対応が可能である。
更に、今後想起される新たな特定分野の社会的要求に対しても、基礎研究領域及び臨床研究領域の二つの領域と関連付けて、別領域を設定する等適切な措置を取ることが出来る。

(改組前)			(改組後)		
	専攻名	入学定員		専攻名	入学定員
博士課程	病態制御医学専攻	11名	⇒	医学専攻	30名
	生体防御医学専攻	6名			
	分子機能制御医学専攻	10名			
	環境社会医学専攻	3名			
	合計	30名		合計	30名

<参考> 平成18年度には、学部との整合のため博士課程の実情に合わせて専攻名称を変更し、定員の配分も実情を考慮して是正・変更したものであるが、募集人員は変わらず、授業内容についても変更はしていない。

II 教育課程編成の考え方・特色

- 1) 優れた研究者を養成するための「基礎研究領域」と研究能力を備えた高度専門性を有する臨床医等を養成するための「臨床研究領域」及びわが国の死亡率第1位を示す“がん”の研究・診療に特化した専門医養成のための「がん専門領域」の三つの教育課程を新設する。
- 2) 基本的な研究手法の修得や優れた研究能力等を備えた臨床医等の養成を目的として、それぞれ「実践セミナー」や「大学院セミナー」を開催し、更に、「臨床セミナー」や週毎の「カンファレンス」、「症例検討演習」等実践的な事例研究等を展開するなかで、様々な症例に即応できる臨床医を育成することが可能となる。
- 3) がん専門医師の養成については、医学部に平成19年4月に「臨床腫瘍医学講座」を新設し、「がんの臨床」・「がんの基礎研究」の分野について「がんの診断病理学」・「臨床腫瘍学」等総合的科目をはじめ、臓器別科目を網羅することで、教育・指導体制に万全を期しており、多様化し複雑化した「がん医療」に対応する体制を整える。
- 4) 臨床と研究のバランスや地域でのがん専門医の需要から考慮して、一つの領域から毎年10名（現在の本学医学部卒業生100名の約1割）程度の専門医を、基礎研究領域・臨床研究領域及びがん専門領域の三つの領域で育成するため、合計30名の入学定員を設定する。
 なお、本研究科では、課程博士・論文博士合わせて各年度約30名程度に学位を授与しており今後ともこの数字を維持することが、地域における本学への社会的要請でありこれを維持したい。
 昼夜開講制度を活用して、医師・医員等の現役社会人を入学対象として門戸を拡大し、30名の定員充足を維持することは十分に可能と考えている。
- 5) 「基礎研究領域」及び「臨床研究領域」に設定している授業科目は、関連学会の認定医・専門医の受験資格取得に必要な授業科目もあり、必要科目を履修して本研究科を修了し、学位を取得すれば、各学会認定医の受験資格取得に繋がるものである。
 また、「がん研究領域」に設定している授業科目についても、臓器別のがん専門医受験資格取得に必要な授業科目があり、就学期間中、臓器別に最低三つの専門科目を履修し単位を修得すれば、「がん関連の認定医・専門医」の受験資格取得に繋がる。

(例)	(授業科目)	(取得資格)
	神経病態科学	— 日本神経学会認定医
	創傷診断治療学	— 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
	総合画像診断学	— 日本医学放射線学会認定放射線科専門医
- 6) 30単位の修得が修了要件であるが、単位は授業科目の履修だけでなく、学位論文の作成とその結果としての学位論文にも付与する。30単位の内訳は、共通科目5単位、領域の選択科目5単位、全領域の選択科目5単位、論文作成研究5単位、学位論文10単位である。
 各授業科目の単位数については、科目間で差異が生じないように、全て5単位として設定し、5単位の構成は、講義1単位、演習2単位、実習2単位に見合う部分から成っており、これは授業の体系性を担保し、教育効果を高めるためである。
- 7) なお、現在のカリキュラムを履修する大学院生に対しては、当該大学院生が修了するまでの間、その教育課程は保障され、新教育課程と旧教育課程の授業科目を同時に開講する等の措置を講ずる。

修了要件及び履修方法	授業期間等	
I 修了要件 ・4年以上の在学 (優れた業績をあげた者は3年以上の在学) ・30単位以上の修得 ・学位論文の審査及び最終試験の合格	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分
II 履修方法 各領域共 ・共通科目 5単位 ・専門科目 10単位 (※) ・論文科目 15単位 合計 30単位 ※専門科目10単位については、 所属領域の専門科目から1科目5単位修得し、 他領域を含む全ての専門科目から1科目5単位を修得し、 合計10単位とする。		